

各基準での
優れた点・改善を要する点

(平成26年度実施分)

※ 本資料は、平成 26 年度高等専門学校機関別認証評価及び選択的評価事項に係る評価における各対象校の評価結果にて掲げた「優れた点」及び「改善を要する点」を抽出し、観点ごとに分類整理したものです。

※ 主な優れた点及び改善を要する点は、網掛けになっております。

基準 1

1-2-①：周知

改善を要する点

- 学校の目的について、様々な手段により学校構成員の周知を図る取組を行っているものの、教職員の実際の周知状況を把握する取組は十分とはいえない。【苫小牧】
- 学校の目的について、様々な手段により学校構成員に周知を図る取組を実施しているものの、学生への周知状況は十分とはいえない。【秋田】
- 目的の学生への周知に関するアンケート結果では、6項目の教育目標については、学生の周知状況が低く表れている。【小山】
- 当校の理念・教育目標や各学科・一般科目・各専攻の学習目標について、様々な手段を通じて学校構成員に周知を図る取組を実施しているものの、準学士課程学生の周知状況は十分とはいえない。【津山】
- 学校の目的について、様々な手段により学校構成員の周知を図る取組を行っているものの、実際の周知状況を把握する取組は十分とはいえない。【大島商船】
- 目的の学生への周知に関して、教育理念、教育目標の周知は十分とはいえない。【新居浜】
- 学校の目的について、様々な手段により学校構成員の周知を図る取組を行っており、学生及び常勤教員の実際の周知状況を把握する取組を行っているものの、それ以外の学校構成員の周知状況を把握する取組は十分とはいえない。【大分】

基準2

2-1-①：学科の構成

優れた点

- 国内の高等専門学校では非常に少ないビジネス系の学科・専攻を有しており、その特徴を活かし、「工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得」する等の目標を設定し、専攻科課程では工学系専攻とビジネス系専攻を融合したシナジー教育を行っていることは、特色ある取組である。【福島】
- 近年の産業界では複合的・融合的な製品を研究開発できる分野横断的な技術者が求められていることに対応して、学科構成を総合システム工学科のみの1学科とし、1・2年次は共通の工学基礎科目を修得させ、3年次から4つの専門コースを選択させて分野別教育を行いつつ、各コースに分野横断型の授業科目を配置していることは、特色ある取組である。【近大】

2-1-②：専攻科の構成

優れた点

- 国内の高等専門学校では非常に少ないビジネス系の学科・専攻を有しており、その特徴を活かし、「工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得」する等の目標を設定し、専攻科課程では工学系専攻とビジネス系専攻を融合したシナジー教育を行っていることは、特色ある取組である。【福島（再掲）】

2-1-③：全学的なセンター

優れた点

- 実習工場において、実践的な技術者の育成に寄与するために、卒業研究・特別研究やアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト（ロボコン）等の課外活動の製作活動を行う学生を対象として、機械加工技術の講習を行い、それを修得した学生にマイスター資格を与え、自ら工作機械を扱うことができるようにする制度を継続しており、単に機械加工の基礎技術を習得させるだけでなく、加工計画の立案から実施までを学生自身が考える機会を与えている。【津山】
- 国際交流推進室を設置し、シンガポールマリタイムアカデミー、カウアイコミュニティカレッジ、高雄海洋科学大学の3校との提携協定に基づき、学生交流、海外英語研修、海外研究活動に加え、当校外国人留学生との交流活動など、世界とつながる様々な機会を提供し、交流活動後に全学向けの報告会を設け、学生自身の体験を報告させていることは、特色ある取組である。【大島商船】

2-2-①：教育活動を有効に展開するための体制、重要事項の審議

優れた点

- 毎朝始業前に全専任教職員による打合せを行い、日常の徹底事項、行事予定、学生への連絡事項等の伝達を行っている。また、当校の教員室は校務組織ごとの大部屋体制を採用しており、各業務

の遂行や情報の周知などの円滑化を図るとともに、一般科目担当教員と専門科目担当教員の情報交換や教員間連携に寄与することを目指している。これらは特色ある取組である。【近大】

2-2-②：教員間連携

優れた点

- 指導教員会議が、月に1回専攻科課程を含む全クラスの指導教員（クラス担任）が集まる形で行われ、学級運営、学生の学習状況や厚生補導など学生の動向に関する情報交換を効果的に行っているとともに、一般学科教員と各専門学科教員との連絡会議が開催され、一般科目及び専門科目を担当する教員の効果的連携が図られている。【豊田】
- 英語科教員と専攻科担当教員が連携して、専攻科課程1年次「プロジェクト演習Ⅱ」の中に英語教育を組み込み、より実践的な指導を試みてきたが、さらに英語による発表やコミュニケーションの訓練を求める要望に配慮して、英語ネイティブ常勤教員及び日本人英語科教員による専攻科課程1年次「英語コミュニケーション演習」を新設し、英文ライティングとそれに基づいた口頭でのプレゼンテーションを重点的に訓練している取組は、特色ある取組である。【大分】

改善を要する点

- 一般科目担当教員と専門科目担当教員による関連授業科目の内容・進度の調整等の科目間連携に関する活動は個別に日常的に行われているものの、学校としての取組が機能的に行われているとはいえない。【苫小牧】
- 一般科目及び専門科目の担当教員間で関連科目の内容や進度等の調整を機能的に実施するための体制が整備されておらず、科目間連携に関する取組は個別になされているものの、その組織的な取組は十分であるとはいえない。【近大】

2-2-③：教員の教育活動の支援体制

優れた点

- 創造的な教育に対する予算支援として創造教育支援経費を設置しており、教員が創造的な教育内容、教材開発、実験テーマなどの開発や導入を行いたい場合に申請すれば、校長による審査の上で予算配分される取組は、特色ある取組である。【秋田】
- 年2回の授業公開週間を設け、参観教員によるコメントを授業参観報告書として教務委員会に提出させ、対象教員にフィードバックしている。また、『津山高専の勉強法—標準的授業モデルと授業の受け方、そして、それに対応した自宅学習法マニュアル—』を毎年作成し、準学士課程1年次生に配布・解説し、自学自習や勉強方法に関する共通の意識を学生全体へ徹底することで、教員が学生に勉強法を指示しやすい環境を整えている。さらに、授業法改善パートナーシップという組織を作り、授業調査の実施、公開授業の実施とそれに関するFD、授業術講習会の計画、新任教員の授業サポート等を実施している。これら一連の取組は、特色のある取組である。【津山】

基準3

3-1-①：一般科目担当教員

優れた点

- 英語科のシニア教育士の教員による英語のプレゼンテーション指導を実施し、特別研究指導教員との連携のもと、専攻科生を海外で研究発表させているほか、国際委員会、専攻科委員会とも連携し、毎年大学教員を海外から招いて、英語による特別研究発表会を実施し英語による討論を活発に行わせる等、成果を上げている。【函館】

3-1-②：専門科目担当教員

優れた点

- 多様な経歴を有する教員組織とするため、教授及び准教授のうち、当校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外での研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として60%を下回らないとの基準を設定し、教員採用を行っていることは、特色ある取組である。【長岡】
- 各コースとも専門科目担当教員として企業勤務経験者を多数配置し、実践的な教育を行う体制としていることは、当校の教育目的に照らして優れた点である。【近大】

3-1-③：専攻科の授業科目担当教員

優れた点

- 専攻科課程の学生のグローバル社会に向けた実践的能力及び英語力の向上のために4人の博士の学位を有する外国人非常勤講師を配置し、1年次の「ライフサイエンス」及び2年次の「電子・生産システム工学特別演習」「環境システム工学特別演習」の一部を英語で講義していることは、特色ある取組である。【苫小牧】

3-1-④：教員組織の活動をより活発化するための適切な措置

優れた点

- 授業時間割編成において、全ての教員に授業のない日を週1回設定するように努めるとともに、「ノー会議デー」を設け、教員が研究・教育活動に専念する時間を確保できるよう配慮している取組は、特色ある取組である。【秋田】
- 毎年多くの教材開発のテーマに対して、校長裁量経費の配分を積極的に行い、教育活動の向上を図っている点は優れている。【石川】
- 助教採用後原則1年間は学校運営に関する校務を免除して教育研究活動の研鑽を促すことや、新任教員全員に対して原則2年間合同教員室で執務を行わせ、指導担当の教授から教育活動における諸指導を受ける体制を設けている。また社会経験の少ない教員に対しては、ビジネスマナー講習会などの講習を実施している。さらに、採用2年以内の若手教員の授業力向上を目的として、ベテラ

ン教員とのペアによる双方向授業参観を実施し授業改善に役立たせているなど、新任、若手教員の育成に多面的に取り組んでいることは、特色ある取組である。【米子】

3-2-①：学校としての全教員の教育活動の評価

優れた点

- 教員業績評価自己申告表に基づき定期的に教員評価を実施しており、総合評価で劣ると判定された教員には改善指導を行うとともに、評価結果を人事・給与システムに反映させていることは、特色ある取組である。【近大】

3-2-②：教員の採用、昇格に関する基準や規定

優れた点

- 教授の選考に際しては、選考する分野に精通する学校外の教授を、選考委員会の委員に加えて、選考を行っていることは特色ある取組である。【新居浜】

基準4

4—1—①：入学者受入方針

改善を要する点

- 入学者選抜の基本方針については、準学士課程1年次、編入学、専攻科課程において学校内で共通理解されている入学者選抜の基本方針はあるものの、明文化して公表してはいない。【函館】
- 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に関する教職員への周知を図る取組を行っているものの、実際の周知状況を把握する取組は十分とはいえない。【苫小牧】
- 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を構成する「求める学生像」は明文化されているが、もう一つの構成要素である「入学者選抜の基本方針」については、考え方は教職員に共有されているものの、明文化されていない。【秋田】
- 入学者選抜の基本方針については、校内で共通理解されており、合格者の総合平均点、科目別最低点を入試説明会等で公表し、入学者選抜の基本方針の主旨を伝えてはいるものの、明文化して公表してはいない。【群馬】
- 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を構成する「求める学生像」は明文化されているが、もう一つの構成要素である「入学者選抜の基本方針」については、考え方は教職員に共有されており、今後明文化する予定となっているものの、現時点では明文化されていない。【長岡】
- 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を構成する「求める学生像」は明文化されているが、もう一つの構成要素である「入学者選抜の基本方針」については、当校の「求める学生像」を理解している学生、あるいはそれに合致している学生を受け入れるという考え方は教職員に共有されており、今後明文化する予定であるものの、現時点では明文化されていない。【津山】
- 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を構成する「求める学生像」は明文化されているが、もう一つの要素である「入学者選抜の基本方針」については、考え方は教職員に共有されており、実際の入学試験に反映されているものの、明文化されていない。【大島商船】
- 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に関する教職員への周知を図る取組を行っているものの、実際の周知状況を把握する取組は十分とはいえない。【大分】

4—3—①：入学者数

改善を要する点

- 実入学者数の改善に資する取組が行われているものの、5年間の平均をみると一部の専攻において、実入学者数が定員を下回る状況になっている。【大島商船】
- 準学士課程においては、入学者数が入学定員を下回る状況は改善されつつあるものの、更なる取組が必要である。また、専攻科課程においては、改善策が実施されているものの、入学者数が入学定員を下回る状況は改善されていない。【近大】

基準5

5-1-①、5-5-②：教育課程の体系的編成、授業内容

優れた点

- 準学士課程において、当校は学生へのきめ細かい教育・指導や学生一人一人の適性とニーズに合った教育をモットーとしており、英語・数学において習熟度別クラス編成とし、学習達成度の高いクラスではより深い内容の授業を、そうでないクラスではそのクラスに応じて基礎項目に重点を置いた授業を実施していることは、特色ある取組である。【近大】

改善を要する点

- 専攻科課程において、学習・教育目標を達成するための教育課程の体系的な編成という点では、機械工学科及び電気電子工学科出身の学生について、目標C-1に関して、一部不明瞭な点がある。【函館】
- 準学士課程における教育課程の体系的な編成において、教育目標を達成するための体系的編成という点で、機械工学科の教育目標⑤については、一部不明瞭な点がある。【小山】
- 教育目的を達成するための体系的な編成という点では、準学士課程の教育課程については、教育目標D「地球の一員としての倫理力」及び教育目標E「社会と関わるためのコミュニケーション力」などにおいて、一部不明瞭な点が見られる。【米子】

5-1-②、5-5-③：学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等への配慮

優れた点

- 準学士課程において、平成18年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」として採択された「高専間連携を活用した体験型環境教育の推進－持続可能な環境社会を担うエンジニア育成のための体験型教育プロジェクト」の成果を基礎として、平成20年度から「特別学修（環境産業体験プログラム）」の科目名で、野外セミナー、工場見学、ワークショップ、報告会などを通して持続可能な環境社会の在り方について様々な視点から考える姿勢を身に付けさせる取組を実施し、各専門学科で単位認定している。【苫小牧】
- 準学士課程においては、平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択された「超広域連携に立脚した高専版組込みスキル標準の開発と実践」で取り組んだe-learning教材の開発、実験実習の開発などの成果の一部は、電気情報工学科5年次の「IC応用回路演習」において取り入れており、社会からのニーズが高い組込み技術者の育成に対応している。【秋田】
- 準学士課程において、社会からの要請を受けて、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復旧復興に対する人材育成科目として、全学科の5年次に「放射線管理学概論」「環境・エネルギー工学概論」「防災通信工学」を開講していることは、特色ある取組である。【福島】
- 東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復旧復興に対する人材育成が社会からの要請で当校の責務となったことを受けて、専攻科課程3専攻にまたがる「復興人材育成特別

コース」を設けている。【福島】

- 準学士課程において、学術の発展動向に対応するため、複数学科の教員により構成される学科・専攻科横断型一貫教育コース制度を試行的に導入し、他学科の単位の履修、専攻科科目の早期履修、合同ゼミへの参加、自己啓発型課題学習等を課していることは、特色ある取組である。【長岡】
- 準学士課程において、平成 19 年度文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）」に採択された「長岡高専地球ラボによるキャンパスの国際化」の継続的活動として、全学生が受講可能な「国際関係学演習」を開講し、異文化理解及び国際感覚を養う機会を提供している。また、平成 21 年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択された「超広域連携に立脚した高専版組込みスキル標準の開発と実践」の成果の一部が、電気電子工学科 4 年次の「電気電子工学実験Ⅱ」のテーマに展開されている。【長岡】
- 準学士課程において、平成 20 年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」として採択された、「中海とともに育てる地域連携型環境教育（ラムサール条約から学ぶ中海再生と Wise & Wide Use）」の成果を活かし、建築学科 4 年次の「設計製図Ⅳ」の課題及び物質工学科や建築学科の卒業研究テーマに活用していることは、特色ある取組である。【米子】
- 準学士課程において、平成 18 年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」として採択された「実学重視の e-ラーニングサイト構築と展開—即戦力となる実践技術者養成を目指して—」や「海事技術者のキャリア育成プログラム—強い職業意識と高い職業能力を備えた海事技術者の育成—」の成果の活用例として、自学自習用ソフトや「旗りゅう信号学習ソフト」の授業等で活用するとともに、キャリア教育読本として活用できる『船しごと、海しごと』『はじめての船上英会話』『マリタイムカレッジシリーズ 船舶の管理と運用』を編集・出版し、一部を教科書として使用している。【大島商船】
- 準学士課程において、平成 18 年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採択された「地域連携プロジェクト型ものづくり活動—工都新居浜の活性化プラン—」の成果を活かし、「まちづくり・地域の求心力向上プロジェクト」を展開し、機械工学科、電気情報工学科の卒業研究に活用し、教育に継続的に活かしていることは特色ある取組である。【新居浜】
- 準学士課程において、平成 20 年度に文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」として採択された「地域水環境を活用した実践的環境技術者教育」の授業への活用例として、都市・環境工学科 4 年次「地域水環境工学実習」を実施するとともに、課題学習単位としてより柔軟に対応できるよう内容を充実発展させている。また、平成 19 年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」として採択された「異文化体験型国際技術者総合キャリア教育—東南アジアからの卒業留学生を核とした実践的総合キャリア教育」の成果の一部を、「足踏みミシンの修理・贈呈事業」の継続や、シンガポール・ポリテクニク校との学生の相互研修交流や海外インターンシップなどのグローバル教育の取組に反映している。【大分高専】

5-2-①：授業形態のバランス、適切な学習指導方法の工夫 優れた点

- 準学士課程において、平成 21 年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択された「超広域連携に立脚した高専版組込みスキル標準の開発と実践」の成果を活かし、修得したスキルの保証を行うネットワーク対応の試験システムである e-test を情報工学科

5年次の「ヒューマンインターフェース」に取り入れ、学生が修得した技術を学生自身に確認させ、学習意欲の向上を図っていることは、特色ある取組である。【函館】

- 平成 18～20 年度経済産業省中小企業庁「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」に採択された「函館圏におけるマネジメント能力に優れた建設人材の育成」等の成果を活かし、「はこだてコンクリート塾」「技術士第二次試験チャレンジセミナー」を展開し、環境都市工学科4年次の「構造設計製図Ⅰ」、5年次の「施工技術」及び環境システム工学専攻1年次の「コンクリート工学特論」の各授業にフィードバックし教育の充実を図っていることは、特色ある取組である。【函館】
- 準学士課程において、経済産業省中小企業庁の「中小企業ものづくり人材育成事業（高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業）」に平成 18 年度、平成 19 年度に採択された「群馬工業高等専門学校を中核とした群馬県内の輸送機器・電気機器産業における加工技術の高度化プログラム」の成果を活かし、事業終了後も地域企業の若手技術者を対象とした「群馬高専ものづくり実践人材育成講座」を実施し、当校の授業で開発した教材を講座で用い、講座で開発した教材を授業で活用するなど、相乗効果を生んでいる。【群馬】
- 準学士課程において、平成 20 年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に採択された「学習達成度試験による専門教育の質の保証」の成果を活かし、電子情報工学科4年次「システム設計演習」を実施し、専門達成度試験を行っている取組は特色ある取組である。【石川】
- 準学士課程において、平成 21 年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に採択された「基礎科目を重視した創造教育プログラム」の成果を活かし、電気工学科1年次「電気工学基礎Ⅰ」、2年次「回路基礎」など低学年での in situ 実験をはじめとし、全学科で in situ 教育を実施している取組は、特色ある取組である。【石川】
- 準学士課程において、平成 20 年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に採択された「ボランティア活動を活用した実践教育」の成果を活かし、当校の若手教員を代表とする防災ボランティア団体による活動を継続し、学んだ知識を社会の中で活かすことを通して、学力の定着と実践力の向上を図っていることは、特色ある取組である。【豊田】
- 準学士課程において、平成 20 年度経済産業省「中小企業庁の中小企業ものづくり人材育成事業（高等専門学校を活用した中小企業人材育成事業）」に採択された「鳥取県における中小企業の産業力強化のための若手技術者育成事業」の成果を活かし、物質工学科4年次の「物質工学実験」において単セル液晶ディスプレイの実験内容に継続的に活用していることは、特色ある取組である。【米子】
- 準学士課程において、平成 20 年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択された「地域特性に配慮し耐震性向上を目指した建築技術者への再教育プログラム」の成果を活かし、建築学科5年次の「構造解析」「鋼構造」「構造計画」の授業において、骨組みの弾塑性解析法、骨組みの動的解析法、鉄骨建築物の耐震診断、耐震改修などの授業内容に継続的に活用していることは、特色ある取組である。【米子】

5-2-②、5-6-②：シラバス 改善を要する点

- 専攻科課程において、1単位の履修時間が、授業時間以外の学修と合わせて45時間が必要である授業科目について、概要は明示されているものの、各授業科目のシラバスでは、準備学習に必要な具体的内容に関しては明記されておらず、学生に伝わりにくくなっている。また、成績評価・単位認定に当たって、学修時間の確認方法が不統一で不明瞭な点があり、評価方法を検討中である。
【函館】
- 準学士課程及び専攻科課程における教員のシラバス活用状況を学校として把握する取組は十分とはいえない。【苫小牧】
- 1単位の履修時間が、授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目について、専攻科課程のシラバスでは、メッセージ欄を設けて事前学習について指示できるようにしているほか、宿題やレポートの指示を提示しているものの、自学自習の具体的指示内容は十分とはいえず、学生にわかりにくくなっている。【群馬】
- 専攻科課程のシラバスにおいて、1単位の履修時間が授業時間以外の学修等を合わせて45時間である授業科目について、自学自習内容のシラバスへの記載は十分とはいえず、学生に解りにくいものとなっている。【豊田】
- 準学士課程の各授業科目のシラバスにおいてJABEE（日本技術者教育認定機構）プログラムの学習・教育到達目標の記載はあるものの、各学科の学習目標は各授業科目のシラバスにもシラバス冊子の教育課程系統図にも記載がなく、各授業科目と学科の学習目標との関連性について周知を図る取組は十分とはいえない。【津山】
- 準学士課程、専攻科課程において、シラバスが作成され、内容等が整備され、周知されているものの、学生及び教職員のシラバスの活用状況を学校として把握する取組は十分とはいえない。【津山】
- 準学士課程及び専攻科課程の1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目のシラバスにおいて、授業時間以外の学習等を明示していない科目が散見されるなど、学校としてのシラバスチェック体制に関して改善の余地がある。また、学生や教員のシラバス活用状況を学校として把握する取組は十分とはいえない。【大島商船】
- 専攻科課程の1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目について、新年度当初に開催している専攻科生に対するガイダンスで配布資料をもとに概要の説明をしているものの、事前学習や事後展開の具体的内容については、各授業科目のシラバスには十分には記載されておらず、学生にわかりにくいものとなっている。【新居浜】

5-2-③、5-6-③：創造性を育む教育方法の工夫、インターンシップ

優れた点

- 専攻科課程1年次「生産システム工学創造実験」「環境システム工学創造実験」、2年次「複合創造実験」では、到達度を明確にしたルーブリック評価を導入しており、企業・自治体などのクライアントが提示する社会で求められている最新の課題に対し、グループでの討議、及び退職技術者からなる特専教授（マイスター）や指導教員の助言・指導を通して、新たな発想への転換を図らせ、独自の解決策を検討・提案させることにより、創造性を育む工夫をしていることは、特色ある取組である。【函館】
- 準学士課程において、全学科に実験又は実習科目を必修科目として設定し、創造性を育む教育を

行っているが、特に、全学科共通の1年次「ものづくり基礎」では各学科で用意したテーマを与え、技術に関心を深めさせる一方で、実験・実習の方法や、共同作業の進め方など、創造性を育むための導入科目としている。また、学年進行とともに、創造性を育むための教育について各学科それぞれに工夫を行っている。例えば、機械工学科3年次の「生産加工実習Ⅲ」においては、最終的に製作するものを指定するが、使用材料の選択、完成物の大きさ、形状、作製方法などは学生の創意工夫に任せることで、創造性を育成するよう配慮している。【苫小牧】

- 専攻科課程1年次の「創造工学」、2年次の「エンジニアリングデザイン」「電子・生産システム工学特別演習」「環境システム工学特別演習」などにおいて創造性を育む工夫を行っている。これらの授業においては、創造的発想法や問題解決法について教授した上で、プロジェクトに取り組みせ、プロジェクトの途中経過や最終結果についてグループ単位や全体での発表や議論の機会を与えることを通じて創造的能力を高める工夫を行っている。【苫小牧】
- 実践的な技術者の養成のため、専攻科課程1年次に実質10日間以上のインターンシップ参加を義務付け、そのために全学科に毎年実習機関調査依頼を行い、研修先を確保していることは、特色ある取組である。【苫小牧】
- 準学士課程では、学生の創造性を育む取組の一環として、各専門学科において工作実習によるものづくり教育を、1年次の授業科目に取り入れている。これらの授業では、単に学生が作りたいものを作るのではなく、与えられた課題に対して図面から製作物の構造や効率の良い作業工程を考えたりする機会を設けるなどして創造性を高める工夫をしている。また、各学科各学年で実施する実験・実習でも、創造性を高める工夫を行っている。例えば、機械工学科3年次の「創造設計製作」では、与えられた課題・テーマを満足できるような機械装置（ロボット）の設計製作にグループで取り組み、互いに切磋琢磨させることを通じて創造性を育てている。【秋田】
- 準学士課程のインターンシップについては、社会経験の大事さを説き、積極的に参加するよう指導しており、選択科目であるものの、ここ数年はほぼ全員の学生が履修している。【秋田】
- 専攻科課程の各専攻の1年次及び2年次に配置されている「創造工学演習」では、与えられた技術的問題を含む課題に対し、限られた時間内で取り組み、様々なアプローチで解決策を導くことを求めており、グループで協力して、それぞれの得意分野を活かしながら課題に取り組み、互いに切磋琢磨する中で、問題解決のための創造性を高めるよう工夫している。例えば、生産システム工学専攻2年次では、後期の自己提案型の「創造工学演習」において、製作する目的物も普段の生活や研究活動を背景に、3～4人で構成する各班で決定させ、金額や納期などの制限のほかに、従来存在しなかった物、従来実現できなかった機能、これまでと異なる手法などをできるだけ多く達成することを製作条件として、製作計画を許可することにより、何も無いところから生み出す達成感と、班員との議論やコミュニケーションを通して得た工夫、その実現の難しさを体験させることで創造教育の総まとめとしている。【秋田】
- 準学士課程全学科2年次の「ミニ研究」において、答えのない課題に取り組みさせることで創造性を育てるとともに、工学系4学科の「創作実習」において、各学科の特徴に合わせて創造性を育む授業を継続している。さらに、機械工学科は学科単位の創造性を育む取組として、「市民に役立つモノづくり」をテーマに、2年次生がアイデアを出し、それをもとに5年次生が仕様書、計算書、図面にまとめて2年次生に渡し、翌年度の3年次進級時に「創作実習」の課題として部品加工から組立てまでを行い、4年次生は前年の経験からモノづくりの楽しさや難しさを3年次生に伝えるという「異学年協働ループ型のモノづくり教育」を実施している。【福島】

- 準学士課程全学科4年次において、夏期休業中にインターンシップを必修科目とし、報告書作成と口頭発表又はポスター発表を行わせ、単位認定していることは、特色ある取組である。【福島】
- 専攻科課程の3つの専攻では、各専攻の特徴に合わせて学生の持っている創造的能力を高める授業を実施している。機械・電気システム工学専攻1年次では「創造工学演習」において、機械工学科卒業生と電気工学科卒業生のそれぞれ2～3人ずつで混合チームを構成し、異なる専門知識・技術をもった複数教員の認知的なアドバイスを与える中で、具体的な機器やシステムを製作させ、各チーム及び全体で議論させることを通じて創造性の育成を図っている。物質・環境システム工学専攻1年次では「物質・環境システムデザイン演習」において、与えられた課題に対して解決策を複数提示し、最適解を表現させる中で創造性を高める工夫を行っている。ビジネスコミュニケーション学専攻1年次では「ビジネス創造演習」及び「新事業開発I」において、具体的なモノをデザインし、それが市場で受容されることを目指す中で学生個々の創造性を育む工夫を行っている。【福島】
- 専攻科課程全専攻1年次において、主に夏期休業中にインターンシップを必修科目とし、実践的教育を行っている。また、英語でのコミュニケーション能力を養成する方策も兼ねて海外インターンシップを積極的に進めており、平成25年度においては、フランス、オーストラリア、中東、中国に合計14人の派遣実績を挙げている。【福島】
- 準学士課程において、機械工学科5年次の「機械設計製図Ⅲ」では、学生をグループ分けし、グループごとに開発するエンジン仕様を定め、各自の設計計算に基づいてグループごとに討議して設計値を決定させている。設計値の決定には、複数の要素を考慮する必要から、答えが一つとは限らず、創造性を発揮させることが求められている。この中で、教員と学生間及び異なる視点の学生同士の討議を通して、学生の発想の転換を行わせて、創造性の育成を図っている。【小山】
- 専攻科課程1年次の「物質工学専攻実験」では、コースが異なる学生によるチームで、与えられたテーマについて実験を計画し、教員とディスカッションするとともに、専門が異なる学生間の議論を通して、発想の転換を図らせるなど、創造性の育成に取り組んでいる。【小山】
- 準学士課程において、電子情報工学科4年次の「電子情報工学実験実習」では、学生自らがテーマを考えて、ソフトウェアやハードウェアの設計・開発を行うプロジェクト・ベース・ラーニングを実施している。2人程度でグループを構成し、それまで学んだ知識をベースにテーマを検討させ、実験スタート前にテーマ・レベルの適否のチェックと設定変更及び開発スケジュールの立案をさせて、学生には毎週、進捗状況を指導教員に報告させ、適切な指導・助言の下に発想を転換させ、軌道修正させながら作品の完成に取り組ませるなど、創造性の育成を図っている。【群馬】
- 専攻科課程1、2年次の「シミュレーション工学」では、各自の興味のあるテーマでシミュレーションを行い、プレゼンテーションをさせている。専攻の異なる学生同士の議論を通して、視点の異なる考え方に触れさせ、自らの発想の転換を図らせることにより、創造性の育成を図っていることは、特色ある取組である。【群馬】
- 準学士課程において、学生の創造性を育むために、課題解決型教育を含む内容の科目を全ての専門学科に配置するとともに、実験・実習、ものづくりを通して創造性を養う授業を導入している。例えば、機械工学科3年次の「総合製作」においては、企業の社員になったつもりで、製品開発プロジェクトの一員として、競争的開発を模擬体験させ、アイデアや製作上で生じた問題には教員から直接答えを与えず、調べ、考えて自分なりの答えを導き出すように誘導することで、創造的能力の向上を図っている。【長岡】

- 専攻科課程の各専攻の「専攻科ゼミナール」「特別実験」「特別研究」において創造性を高める工夫を行っている。例えば、1年次の「特別実験」では、明確な答えがなく創造性を必要とするオープンエンドな課題に取り組み、その解決方法をグループで協働して導かせるプロセスを通じて、創造性を育てている。【長岡】
- 準学士課程において、学生が主体となって企画から制作まで行う「石川高専オンリーワンプロジェクト」を課外活動として実施し、学生の創造性を育み実践力の育成を図っている取組は、特色ある取組である。【石川】
- 専攻科課程1年次「創造工学演習Ⅰ」及び2年次「創造工学演習Ⅱ」では、分野背景の異なる学生によるチームで意見を交わすことにより、発想の転換を図らせるなど、創造性の育成を試みている取組は、特色ある取組である。【石川】
- 専攻科課程では、3か月間の長期インターンシップを必修科目として実施しており、実務経験を通じて、実践的技術者として必要な実践力の育成を図るなど長期インターンシップを有効に活用している。【石川】
- 準学士課程の電気・電子システム工学科4年次「電気電子工学実験ⅡB」では、PBL実験テーマにおいて、ブレインストーミング及びKJ法によるアイデアシミュレーション(グループディスカッション)を行い、異なる発想に触れる中から新たな発想を生み出させるよう工夫を行っている。また、情報工学科5年次「エンジニアリングデザイン実習Ⅱ」では、専用のワークブックを開発し、グループ内でのブレインストーミングによるアイデア創出を行わせるなど、創造性の育成を図っている。【豊田】
- 専攻科課程において、平成21年度科学技術振興機構(JST)「社会システム改革と研究開発の一体的推進」の「地域再生人材創出拠点の形成」に採択された「ものづくり一気通観エンジニアの養成プログラム」(後の文部科学省採択事業)の成果を活かした産学官連携の「創造的ものづくり技術者育成プログラム」を導入して、電子機械工学専攻1年次及び2年次の「電子機械工学特別実験」、情報科学専攻1年次及び2年次の「情報科学実験」では、地域のものづくり企業の技術者と専攻科課程の学生とにより、専門分野が異なるようにチームを編成し、異分野や立場の異なるメンバーによるチーム内でのディスカッション、デザインレビュー発表会を通して、異なる発想に触れる中から自らの新たな発想を生み出させることにより、創造性の育成を図っている。【豊田】
- 準学士課程及び専攻科課程の創造教育について、優れた人々や異質なものなどから刺激と感動を受けることが、発想の転換を促し、新しいものを生み出す力となるとの考えから、建築学科3年次の「デザイン基礎Ⅲ」では、林業体験学習を取り入れ、3年次以上の課外活動や、4年次以上の研究室活動で、古民家の改修と生活体験学習を取り入れ、建築学専攻1年次の「創造設計・演習」では東京大学大学院との協同チームで設計提案に取り組みさせることなどにより、経験したことのない実体験を通して、発想の転換を促す工夫を行っていることは、特色ある取組である。【米子】
- 準学士課程において、各専門学科とも2年次から、授業時間外の自発的学習を含む科目(自発的学習科目)を配置し、早い段階から課題探求型の学習法や試行錯誤を繰り返す中で創造性を育む様々な工夫を行っている。例えば、機械工学科4年次の「設計製作課題演習」では、風上に向かって走行するウィンドカーなど、創造性やオリジナリティを盛り込みやすいテーマを与えるといった工夫をしている。また、電気電子工学科3年次の「電気電子創造演習Ⅰ、Ⅱ」、電子制御工学科4年次の「電子制御課題研究」、情報工学科3年次の「情報創造演習」では、自ら設定したテーマに主体的に取り組み、解決策を試行錯誤的に考えさせることを通じて創造的能力の育成を図っている。

【津山】

○ 専攻科課程において、両専攻ともに、創造性の育成は「特別実験」と「特別研究」で行うことにしており、「機械・制御システム特別実験」では、実験を通して機械・制御システムに関する専門知識を深めると同時に自主的に取り組ませることにより、課題探求力、実験計画能力、データ解析能力などの育成を図っている。「電子・情報システム特別実験」では、いくつかの実験テーマを設定し、その中から学生が自分でテーマを選択し、その実験に自主的・自発的に取り組むことにより、研究能力や創造力の育成を図っている。また、「特別研究」では、特徴あるテーマに取り組ませることにより、創意工夫を繰り返させる中で、問題発見能力や課題解決能力の育成を図っている。【津山】

○ 専攻科課程において、30 時間程度の「校外実習」を義務付け、また4週間程度の長期インターンシップを選択科目として単位認定していることは、特色ある取組である。【津山】

○ 商船学科・情報工学科4年次の「創造演習」及び電子機械工学科2年次の「創造設計」において、個人又は少人数グループを対象に課題を設定し、問題解決策を考えさせることを通じて創造性を養っている。例えば、電子機械工学科の「創造設計」においては、学生を1班10人程度に班分けし、各回、各教員が課題を与え、教員が説明した後、学生にレポートを作成させ、最後に発表させる。「プラズマに関する導入教育」の例では、課題に取り組むだけでなく身近に存在するプラズマの実例を考えさせる、レポート内容を発表させるなどし、そのときの内容に応じて追加課題を与え、考察を深めさせるよう工夫することを通じて、学生の持つ創造的能力を高めるよう努めている。【大島商船】

○ 電子・情報システム工学専攻の「創造工学演習」において、与えられた課題に対して、学生が自分たちの考えを整理し、課題を列挙し、かつ解決手段を見出し、全体像をイメージしながら細部まで考え抜かせることが必要であると考え、授業では、アイデアをメモ用紙に記入させ次第に統一的なアイデアにまとめていく親和図法を採用することを通じて、学生の創造的能力を高めている。【大島商船】

○ 準学士課程において、各学科とも創造力を磨く教育課程体系となるよう設計されているが、実験実習やPBLをさらに創造性を育む内容にするよう充実させている。例えば、電気電子工学科や制御情報工学科・情報工学科では、低学年においてロボット教材を用いて創造的能力を育成する端緒を拓き、高学年においてそれまでに学習した専門の力を応用して図面をもとに自らものづくりができるように創造的能力の基盤を育成し、最終学年あるいは4年次でキャップストーン科目としてのエンジニアリングデザイン科目を配置して、創造的能力をフル稼働する必要がある授業を配置するという一連の流れを通して創造的能力が育まれるような教育体系としている。また、機械工学科や都市・環境工学科においては、低学年からものづくりや社会基盤づくりのための設計能力や実験技術力などの基盤づくりを行い、高学年においては、機械工学科4年次「工学実験Ⅱ」や都市・環境工学科5年次「PBL」によってエンジニアリングデザイン実習としての内容を含んだ科目を配置して、創造的能力を育成する教育体系を整えている。【大分】

○ 専攻科課程の2専攻に共通の1年次「プロジェクト実験Ⅰ」において、出身学科の異なる学生でチームを作り、互いの専門性を活かし、協力しながら与えられた創作課題に取り組ませる中で創造性を育む工夫を行っている。この授業では、4学科の教職員及び工程管理・製作技術に秀でた技術職員による支援体制を組み、毎回の授業の開始時・終了時に、現在までの進行状況や、問題点の把握又は解決策について議論する場を設け、教職員は各グループにファシリテーターとして参加して

いる。また、アイデアやソリューションが得られた段階で中間発表を行い、コメントや注意を学生に提供している。さらに、学生のアイデア創出のために、シンガポールのテマセク・ポリテクニク校のチャートに当校で改良を加えた特別なチャートを取り入れている。【大分】

- 準学士課程の4年次「創造工学演習」、5年次「卒業研究」「創造製作実習」等の授業において、創造性を育む教育方法の工夫が行われている。例えば、コース共通の選択科目である「創造工学演習」においては、各専門コースの異なる視点からのロボットの設計製作等を通じて創造的能力の向上を図っている。【近大】
- 専攻科課程の「工学演習」「工学実験」において、創造性を高める工夫が行われている。例えば、2年次「電気電子工学演習」では、身近な家電の放出する電磁波を測定することにより、電磁波が環境に与える影響を評価し、考察させる中で、学生自らが主体的に問題意識を持って考察できるように、様々な家電の放出する電磁波の特徴や環境への影響の評価事例を紹介するとともに、自分で測定対象を選定し測定方法を考案できるよう、過去の研究事例を紹介することを通じて、創造力を養っている。【近大】

改善を要する点

- 専攻科課程1年次のインターンシップについては、夏季休業中を中心に4週間以上の実習を行っているものの、参加する学生が少ない状況にある。【豊田】
- 準学士課程において、インターンシップは各学科の学習目標において重要な科目であると位置付けられているものの、受講者数が少ない状況にある。【津山】

5-3-①：一般教育の充実、特別活動の実施、課題活動等における豊かな人間性の涵養

優れた点

- 準学士課程において、文科系クラブの活性化を図ることを目的に、文科系クラブ発表会「高専ソコチカラ」を学生主体で毎年2回実施し、文科系クラブの議論を通して、企画力、指導力、コミュニケーション能力の涵養とともに、参加者全員の自主性・主体性の育成を図っている。【新居浜】
- 準学士課程において、学校でのクラブ活動以外に、様々なコンテストへの挑戦やボランティアを含めた自主的な社会活動などへの参加を促し、自主性、主体性を育成するとともに、チャレンジ精神を培い、社会性や協調性を養うために、学生自身が挑戦したいと企画した活動に対して、審査を経て、必要経費の助成を行う「チャレンジプロジェクト」を実施していることは特色ある取組である。【新居浜】

5-4-①、5-8-①：成績評価・単位認定、進級卒業（修了）認定

優れた点

- 準学士課程において、1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目について、適切な量と内容の課題を課すことで授業時間外学習時間を確保することを考えており、その一つの試みとして、平成26年度から「課題カレンダー」を準学士課程の全クラスに掲示して記入させ、各クラスの課題出題状況を学校として把握するとともに、各教科担当教員が相互に確認

できるようにし、最適な授業外学習が実施されるよう促していることは、特色ある取組である。【苫小牧】

- 準学士課程において、1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目について、課題名や時間数を記録する「自学自習課題提出記録シート」を導入しており、自学自習の動機付けに活用が期待される特色ある取組である。【新居浜】

改善を要する点

- 専攻科課程において、1単位の履修時間が、授業時間以外の学修と合わせて45時間が必要である授業科目について、概要は明示されているものの、各授業科目のシラバスでは、準備学習に必要な具体的内容に関しては明記されておらず、学生に伝わりにくくなっている。また、成績評価・単位認定に当たって、学修時間の確認方法が不統一で不明瞭な点があり、評価方法を検討中である。【函館（再掲）】
- 準学士課程及び専攻科課程における成績評価等の規定に対する学生の周知状況を学校として把握する取組は十分とはいえない。【苫小牧】
- 準学士課程の一部の授業科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている。また、再試験・追試験において本試験と同一の試験問題が出題されている。【苫小牧】
- 準学士課程及び専攻科課程において、1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目の成績評価等に関しては、授業時間以外の学修の確認を行うことがシラバスに記載されているものの、その記載どおりに実施されていることを学校として把握する取組は十分とはいえない。【苫小牧】
- 準学士課程、専攻科課程ともに、1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目の成績評価等の方法がシラバスに記載されているものの、その記載どおりに行われていることを学校として把握する取組は十分であるとはいえない。【福島】
- 準学士課程、専攻科課程を含め、一部科目において、複数年度にわたり同一内容の試験問題が出題されている。【小山】
- 準学士課程、専攻科課程ともに、一部授業科目において複数年度にわたり同一の試験問題が提出されているほか、専攻科課程の一部授業科目において、ふさわしくない内容の試験問題が出題されている。【群馬】
- 準学士課程の一部の授業科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている、あるいは再試験において本試験と同一の試験問題が出題されている、答案が適切に保管されていないなどの状況がある。【長岡】
- 準学士課程、専攻科課程ともに成績評価等の規定が定められているものの、それに対する学生の周知状況を直接的に把握する取組は十分とはいえない。【長岡】
- 準学士課程、専攻科課程ともに、一部科目において、複数年度にわたって同一の試験問題が出題されている。【石川】
- 準学士課程の一部科目において、複数年度にわたり同一の最終レポート課題が出題されている。また、最終レポート課題の採点が適正であるとはいえない。【津山】
- 準学士課程、専攻科課程を含め、成績評価等の規定は定められているものの、それに対する学生の周知状況を学校として把握する取組は十分とはいえない。【津山】
- 準学士課程及び専攻科課程について、成績評価・単位認定等の規定が定められているものの、そ

れに対する学生の周知状況を把握する取組は十分とはいえない。【大島商船】

- 準学士課程、専攻科課程ともに、一部の科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている。また、専攻科課程の一部の科目において、再試験で同一の問題を出題し、成績評価が行われている。【新居浜】
- 準学士課程及び専攻科課程における成績評価等の規定に対する学生の周知状況を学校として把握する取組は十分とはいえない。【大分】
- 準学士課程の一部の科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されているほか、多くの科目の再試験において本試験と同一の問題が出題されている。また、専攻科課程の一部の科目において、複数年度にわたり同一の試験問題や期末レポート課題が出題されている。【近大】

5-5-②：教育課程の体系的編成

改善を要する点

- 専攻科課程の教育課程の編成について、学習目標に対応させて授業科目が配置されているものの、学習目標を達成するための体系的編成という点では、学習目標E-2など、一部不明瞭な点がある。【群馬】
- 専攻科課程の教育課程はおおむね体系的に編成されているものの、海洋交通システム学専攻において、選択科目の選択条件指定が不十分であり、選択状況によっては「福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成」の目標項目が達成されないような教育課程の編成となっている。【大島商船】

5-6-①：学習指導法の工夫

優れた点

- 専攻科課程において、平成19年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択された「退職技術者による総合的ものづくり技術伝承」の成果及び平成20年度文部科学省「産学連携による実践型人材育成事業－ものづくり技術者育成－」に採択された「函八連携による道南－青森圏の総合的ものづくり人材育成」の成果を活かし、専攻科課程1年次の「生産システム工学創造実験」「環境システム工学創造実験」及び2年次の「複合創造実験」において、特許の出願なども含めた退職技術者を活用したエンジニアリング教育に活用していることは、特色ある取組である。【函館】
- 専攻科課程1年次の「Fundamental Mechanics」の授業においては、原則日本語の使用を禁止した英語による授業を実施しており、英語によって物事を考える力及びコミュニケーション能力の向上を図っていることは、特色ある取組である。【群馬】

基準6

6-1-①：教育の目的に沿った達成状況の把握・評価の取組

改善を要する点

- 専攻科課程の学習・教育目標の達成状況の把握方法を明確にしているものの、機械工学科及び電気電子工学科出身の学生の学習・教育目標C-1の達成については、達成状況の把握方法に一部不明瞭な点がある。【函館】
- 準学士課程における教育課程の体系的な編成について、実態としての学生の修得の状況には、大きな偏りはないものの、機械工学科の教育目標⑤については、その達成状況を把握・評価する方法に一部不明瞭な点がある。【小山】
- 専攻科課程の学習目標について、その達成状況を把握・評価する方法として「学習・教育目標の総合評価基準」を定めているものの、いくつかの細目については、把握・評価方法について不明瞭な点がある。【群馬】
- 準学士課程で卒業時に身に付ける学力や資質・能力の達成状況を把握・評価する方法には、教育目標D「地球の一員としての倫理力」及び教育目標E「社会と関わるためのコミュニケーション力」などで一部不明瞭な点が見られる。【米子】
- 学期末の専攻科委員会及び成績会議において、教育目標等の達成度を評価する取組を行っているものの、海洋交通システム学専攻において、選択科目の選択条件指定が不十分であり、選択状況によっては「福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成」の目標項目が達成されないような教育課程の編成となっており、達成度の把握・評価方法が十分であるとはいえない。【大島商船】

6-1-③：就職率、進学率

優れた点

- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く、就職先も製造業や情報通信業、建設業、電気・ガス・熱供給・水道業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程の進学率（進学者数／進学希望者数）は極めて高く、専攻科課程の進学率も高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。【函館】
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く、就職先も建設業、製造業、情報通信業等の当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程の進学率（進学者数／進学希望者数）は極めて高く、専攻科課程の進学率も高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。【苫小牧】
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く、就職先も製造業や建設業、情報通信業などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程、専攻科課程ともに進学率（進学者数／進学希望者数）は極めて高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。【秋田】

- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率(就職者数/就職希望者数)は極めて高く、就職先も製造業や電気・ガス・熱供給・水道業、建設業、情報通信業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程、専攻科課程ともに進学率(進学者数/進学希望者数)は極めて高く、進学先も学科、専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系、情報学系、経済学系の学部や研究科となっている。【福島】
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率(就職者数/就職希望者数)は極めて高く、就職先も製造業や情報通信業、建設業、その他サービス業などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程、専攻科課程ともに進学率(進学者数/進学希望者数)は極めて高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。【小山】
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率(就職者数/就職希望者数)は極めて高く、就職先も製造業、情報通信業、建設業などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程、専攻科課程ともに進学率(進学者数/進学希望者数)は極めて高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の理工系の学部や研究科となっている。【群馬】
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率(就職者数/就職希望者数)は極めて高く、就職先も製造業、情報通信業、鉱業、電気・ガス・熱供給・水道業、建設業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程、専攻科課程ともに進学率(進学者数/進学希望者数)は極めて高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。【長岡】
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率(就職者数/就職希望者数)は極めて高く、就職先も製造業や建設業、情報通信業、電気・ガス・熱供給・水道業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程、専攻科課程ともに進学率(進学者数/進学希望者数)は極めて高く、進学先も学科、専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。【石川】
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率(就職者数/就職希望者数)は極めて高く、就職先も製造業や建設業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程の進学率(進学者数/進学希望者数)は高く、専攻科課程の進学率は極めて高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。【豊田】
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率(就職者数/就職希望者数)は極めて高く、就職先も製造業や建設業、学術研究、専門・技術サービス業などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても準学士課程、専攻科課程ともに進学率(進学者数/進学希望者数)は極めて高く、進学先も高等専門学校の専攻科や大学の工学系学部や研究科となっている。【米子】
- 就職について、準学士課程の就職率(就職者数/就職希望者数)は極めて高く、専攻科課程の就職率も高く、就職先も製造業や電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程の進学率(進学者数/進学希望者数)は極めて高く、準学士課程・専攻科課程の進学先は学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。【津山】

- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く、就職先も運輸・海事産業や製造業、情報通信業などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程の進学率（進学者数／進学希望者数）は極めて高く、準学士課程、専攻科課程の進学先は、学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系・商船系の学部や研究科となっている。【大島商船】
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く、就職先も製造業や学術研究、専門・技術サービス業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程、専攻科課程ともに進学率（進学者数／進学希望者数）は極めて高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。【新居浜】
- 就職について、準学士課程の就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く、専攻科課程の就職率は高く、就職先も製造業や学術研究、専門・技術サービス業、建設業、電気・ガス・熱供給・水道業関連など当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程、専攻科課程ともに進学率（進学者数／進学希望者数）は極めて高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。【大分】
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く、就職先も製造業、建設業、電気・ガス・熱供給・水道業などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程、専攻科課程ともに進学率（進学者数／進学希望者数）は極めて高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている。【近大】

6-1-④：学生からの意見聴取の結果

改善を要する点

- 専攻科生、卒業生に対するアンケートによる達成度評価では、目標D「社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して、行動できる技術者」について、達成度が低いとの結果となっている。【函館】
- 準学士課程、専攻科課程ともに、学習等達成度評価記録簿により半期ごとに学習・教育目標の項目別達成度を学生自身に評価させていることは特色ある取組であるものの、その利用が学生自身による達成度評価や目標再設定等にとどまっており、その結果に基づく教育の成果や効果の確認など、学校としての活用状況が明確とはいえない。【福島】
- 学生が行う学習達成度評価、卒業（修了）生や進路先の関係者からの、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力の達成度に関する意見聴取において、準学士課程・専攻科課程ともに改善の検討を進めてはいるものの、英語の能力、国際感覚に関する評価が低く表れている。【小山】
- 準学士課程卒業時の学習目標達成度調査において、学習目標4「表現と対話」の達成状況の評価が低く表れている。また、卒業生アンケートでは、「考えの幅広さ」及び「自分の考えの正確な表現」において、達成状況の評価が低く表れている。【石川】
- 専攻科課程修了時の学習目標達成度調査において、学習目標C「国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。」の達成状況の評価が低く表れている。また、修了生アンケートでは、「語学力」の達成状況の評価が低く表れている。【石川】

- 準学士課程及び専攻科課程の各学年における学習達成度を評価させるために学習等目標記録簿に記入させ、教育の成果や効果を把握しようとしているものの、記録簿の評価項目が各学科の学習目標の項目と直接対応していないため、それに基づく達成度評価には不十分な点がある。また、準学士課程における一般科目の学習目標の達成度を学生に自己評価させる取組が不明瞭である。【津山】
- 卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力に関して、卒業（修了）生に対してアンケートを実施しているものの、それらの質問項目が各学科や専攻科課程の学習目標の項目と直接対応していない。【津山】
- 学生が行う学習達成度評価について、授業評価アンケートによる意見聴取や授業の成績状況から総括的に判断しているものの、教育目標の各項目の達成状況を直接評価したものではない。【大島商船】
- 学生が行う学習達成度評価、卒業（修了）生や進路先の関係者から、学生が身に付けた学力や資質・能力に関する意見聴取において、学生が身に付けた学力や資質・能力に関する直接の達成度評価、意見聴取がなされていない。【新居浜】
- 改善の取組をしているものの、学生に対するアンケート結果では、「国際的コミュニケーション能力」が低く表れ、企業に対するアンケート結果では、「英語力、行動力、リーダーシップ」不足が指摘されている。【新居浜】

6-1-⑤：卒業（修了）生等からの意見聴取の結果

改善を要する点

- 専攻科生、卒業生に対するアンケートによる達成度評価では、目標D「社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して、行動できる技術者」について、達成度が低いとの結果となっている。【函館（再掲）】
- 卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関して、「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育到達目標の項目に対応した意見聴取を進路先等の関係者から実施しているものの、学校の学習目標に対応した意見聴取は、卒業（修了）生及び進路先等関係者に対して実施していない。【苫小牧】
- 学生が行う学習達成度評価、卒業（修了）生や進路先の関係者からの、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力の達成度に関する意見聴取において、準学士課程・専攻科課程ともに改善の検討を進めてはいるものの、英語の能力、国際感覚に関する評価が低く表れている。【小山（再掲）】
- 準学士課程卒業時の学習目標達成度調査において、学習目標4「表現と対話」の達成状況の評価が低く表れている。また、卒業生アンケートでは、「考えの幅広さ」及び「自分の考えの正確な表現」において、達成状況の評価が低く表れている。【石川（再掲）】
- 専攻科課程修了時の学習目標達成度調査において、学習目標C「国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。」の達成状況の評価が低く表れている。また、修了生アンケートでは、「語学力」の達成状況の評価が低く表れている。【石川（再掲）】
- 就職先企業による修了生のアンケートにおいて、「語学力」「地域の課題への積極的な対処」の達成状況の評価が低く表れている。【石川】

- 卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力に関して、卒業（修了）生に対してアンケートを実施しているものの、それらの質問項目が各学科や専攻科課程の学習目標の項目と直接対応していない。【津山（再掲）】
- 進路先の関係者からの意見聴取に基づく卒業（修了）生の目標達成度の評価を行っているものの、アンケート項目が教育目標と直接対応しておらず、その結果から教育の成果や効果が上がっているかについての判断は十分とはいえない。【大島商船】
- 学生が行う学習達成度評価、卒業（修了）生や進路先の関係者から、学生が身に付けた学力や資質・能力に関する意見聴取において、学生が身に付けた学力や資質・能力に関する直接の達成度評価、意見聴取がなされていない。【新居浜（再掲）】
- 改善の取組をしているものの、学生に対するアンケート結果では、「国際的コミュニケーション能力」が低く表れ、企業に対するアンケート結果では、「英語力、行動力、リーダーシップ」不足が指摘されている。【新居浜（再掲）】

基準7

7-1-①：ガイダンス、学生の自主的学習に関する相談・助言体制

優れた点

- 校舎改修に伴い各教員研究室前にコモンスペースを設け、学生が自主的学習を進める上での相談・助言を受けやすい体制を整えるとともに、学生の自主的学習にも使わせるなど有効に活用している。【大島商船】

7-1-②：自主的学習環境及びキャンパス生活環境等の効果的利用

優れた点

- 教員研究室正面に位置する空間をコモンスペースとして設定し、共用の机、いす、ホワイトボード等を配置し、ゼミ、準学士課程2年次「ミニ研究」、自習等、柔軟かつ多様な活用がなされていることは、特色ある取組である。【福島】
- 学生の質疑等に対応するため、専門学科棟の教員室前にコモン・卒研スペースを設置しており、オフィスアワーでの利用のほか、教員個人所有の専門雑誌などの閲覧及び卒業研究におけるディスカッションの場としての利用など、多様に活用している。【大分】

7-1-③：学習支援に関するニーズの把握や、資格試験等の受講及び外国留学のための支援体制

優れた点

- ニュージーランドのEIT（Eastern Institute of Technology）との学術交流協定による学生の短期外国留学制度があり、経済的支援も実施しており、平成22～26年度の5年間で準学士課程の学生63人を派遣している。【苫小牧】
- 海外留学について、積極的な取組がなされ、毎年数十人規模の多数の学生が留学する成果を上げている。【豊田】
- 「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」「居心地の良いクラスをつくるためのアンケート」「日常の行動を振り返るアンケート」「悩みに関するアンケート」などのアンケートを取り入れ、学校外の専門家による分析・指導の下に、学級運営に活用することを継続し、発達障害や学習障害の学生の発見や、学生の学習環境の改善に活用していることは、特色のある取組である。【米子】

7-1-⑤：課外活動に対する支援体制及び責任体制

優れた点

- 全ての部活動の団体に指導教員を配置しているが、必要に応じて外部コーチやOB教員等を特命教員として任命し、遠征の際の引率業務や祝休日の指導及び安全管理を行う制度を整備しており、部活動の充実や指導教員の負担軽減に役立っている。【福島】

7-2-②：特別な支援が必要な学生への生活支援

優れた点

- 入学前にクレペリン検査、UPI（University Personal Inventory）を実施するとともに、新入学生全員に担任及び専門学科の教員からなる専門アドバイザーによる面接を行い、障害を持つ学生の存在を把握するとともに、学生支援室、保健室が主体となり学生のメンタル面の相談にに応じている。また、学生支援室、保健室、担任、授業担当教員で情報を共有し、必要に応じて、カウンセラーや精神科医の協力の下、連携を密にしてチームによる支援を行っていることは、特色ある取組である。【小山】

7-2-③：学生寮

優れた点

- 学生寮では高学年寮生が低学年寮生に教える制度として「寮内寺子屋」を開催するなど、低学年寮生の学習支援と学習習慣付けを図るシステムを構築しており、成果を上げている。【津山】

7-2-④：進路指導体制

優れた点

- 「1年：挑戦と体験、2年：能力開花、3年：能力進化、4年：進路選択、5年：自己表現」とするキャリア教育のイメージを形成し、これに基づいて1年次の説明会から、5年次の面接ワークショップの開催まで、キャリア教育センターと学級担任が中心となり、一貫した組織的なキャリア教育を実現し、その後、総合学生支援センターのキャリア教育支援室が活動を継続しているほか、専攻科課程においては、平成19年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択された「退職技術者による総合的ものづくり技術伝承」の成果を活かし、専攻科課程1年次後期と2年次前期の課題解決型実験の授業において、「ものづくり伝承プログラム」を導入し、退職技術者の指導を通して、専攻科生のキャリア形成を図っている。【函館】
- キャリア支援室を設置し、キャリア教育プログラムを定め、準学士課程1年次のキャリアスタートアップセミナー、2年次の職業趣味検査、3年次のキャリア教育講演会、3年次を対象としたインターンシップ報告会、4年次を主とするインターンシップ・ビジネスマナー講習会、4年次以上のインターンシップ、4年次から5年次にかけての面接相談、模擬面接、また専攻科課程のインターンシップ・ビジネスマナー講習会など、一貫したキャリア教育を図っていることは、特色ある取組である。【小山】
- キャリア教育支援室では、キャリア教育支援を一元化するキャリア教育支援プログラムを策定し、学年ごとに目標を設定して年間計画を企画実行し、1年次から5年次の一貫したキャリア教育を展開している。さらに専攻科課程に対しても、目標を設定し、準学士課程からの一貫したキャリア教育を実施していることは、特色ある取組である。【豊田】
- キャリア教育の一つとして、平成23年度新入生から、T-F i l eと称するパーソナルポート

フォリオを個々の学生に配布し、学生に活動記録をつけさせ、進路に対する動機付け、意識付けに役立たせようとしていることは、特色ある取組である。【豊田】

- キャリア教育の一環として、米子高専振興協力会に加入する地元企業の協力を得て、低学年次の夏期休業期間に、工場や職場を見学するだけでなく、実務体験をさせるオープンファクトリーは、特色のある取組である。【米子】

基準8

8-2-①：図書、学術雑誌、視聴覚資料等

優れた点

- 図書館業務の効率化や利用者サービスの安定供給を図るため、平成25年1月から図書館運営の外部委託を試験導入し、その結果が良好であったことを受けて、平成25年4月から業務を全面委託し、安定的かつ質の高いサービスの提供を行っていることは、特色のある取組である。【福島】

基準9

9-1-①：教育活動のデータや資料の適切な収集・蓄積、評価を適切に実施できる体制整備

優れた点

- 「授業評価アンケート」の集計結果をもとに、年度による傾向や特徴分析を行い、過去には冊子体での情報提供をしているほか、現在は各種アンケート結果を e-learning システムを通して校内に公開し、情報の共有と提供を積極的に行い、経年的に評価値の向上を実現していることは、効果的な特色ある取組である。【函館】

9-1-②：教育状況に関する自己点検・評価

改善を要する点

- 教育の状況に関する自己点検・評価を実施しているものの、学校としての評価項目・評価基準の設定に不十分な点があり、評価結果が不明瞭である。【秋田】
- 教育の状況に関して、学校の構成員及び学外関係者の意見聴取が行われているものの、それらの結果をもとに、学校として策定した基準に基づいた自己点検・評価が適切に行われているとはいえない。【福島】
- 中期計画の実施状況について内部評価を実施し、自己点検・評価としているものの、評価項目・評価基準の設定は十分とはいえず、各種アンケートなどにより聴取した意見を教育の状況に関する自己点検・評価に、十分には反映していない。【群馬】
- 年度計画の実施状況を点検し、教育の状況に関する自己点検・評価としているものの、評価項目・評価基準の設定は十分とはいえず、聴取した意見は十分には反映されていない。【豊田】
- 毎年、中期計画に基づく年度計画の実施状況の確認を行っており、教育の状況に関連する点を取りまとめ、教育の状況に関する自己点検・評価としているものの、自己点検・評価に関する評価項目、評価基準の設定には不十分な点が見られ、聴取した意見をもとにした自己点検・評価には評価内容が十分には記述されていない。【米子】
- 学校の構成員及び学外関係者からの意見聴取は行われているものの、教育の状況に関する自己点検・評価において、学校として策定した評価項目・評価基準が不明瞭であり、聴取した意見が反映されていない。【津山】
- 学校構成員及び学校外関係者の意見の聴取は行われているものの、教育の状況に関する自己点検・評価に関して、学校として策定した点検・評価項目に対する評価基準が必ずしも明確ではない。【大島商船】
- 学校構成員及び関係者からの意見聴取をもとに教育の状況に関する自己点検・評価を実施しているものの、学校として策定した評価項目に関する評価基準が不明瞭であり、教育の状況が適切に評価されているとはいえない。【大分】
- 学校構成員及び学外関係者からの意見聴取をもとに教育の状況に関する自己点検・評価を実施しているものの、評価項目・評価基準の設定に不十分な点があり、評価結果が不明瞭である。【近大】

9-1-③：教育の質の向上、改善のためのシステム整備、方策

優れた点

- 教育点検・改善システムは、学生や社会からの意見を踏まえる「目標改善のループ」と、授業評価アンケートや授業公開を踏まえた各授業担当教員による「教員自己点検表」及び「水準チェック会議」などの活動を含む「教育改善のループ」から構成されている。「教育改善のループ」では、試験問題とボーダーラインの答案の水準を各学科でチェックする「水準チェック会議」の評価結果を含め、各種評価結果が「教員自己点検表」として取りまとめられ、教育点検実施委員会による点検を受け、運営委員会の審議を経て、各委員会への改善方針が提示され実行されているほか、各教員への改善指示が提示され改善が図られている。【函館】
- 自己点検・評価において課題として指摘された英語教育について、改善への積極的な取組を展開し、外部試験の活用、英語の教育課程改訂とともに、平成20年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に採択された「多読・多聴による英語教育改善の全学展開」の成果を活かし、英語の多読・多聴を授業に取り入れ、成果を上げている。【豊田】

改善を要する点

- 評価改善委員会が設置されているものの、各種の評価結果を教育の質の向上や改善に結び付けるための組織としてのシステムの整備が不十分であり、具体的かつ継続的な改善方策が適切に講じられているかは不明瞭である。【福島】
- 各種評価結果に基づいた個々の教員による授業の改善等も行われているものの、自己点検・評価の結果を教育の改善に結び付ける組織としてのシステムが不明瞭である。【津山】
- 各種評価結果に基づいた個々の教員による授業の改善等も行われているものの、教育課程の見直し等の継続的方策を講じることに結びつく組織としての改善システムが不明瞭である。【大島商船】
- 教育の状況に関する改善が行われているものの、それらがどのような検証結果に基づくものであるのか不明瞭であり、PDCAに沿った改善システムが構築されているとはいえない。【近大】

9-1-④：授業内容、教材、教授技術等の継続的改善、教員の改善活動状況の把握

優れた点

- 教育点検・改善システムは、学生や社会からの意見を踏まえる「目標改善のループ」と、授業評価アンケートや授業公開を踏まえた各授業担当教員による「教員自己点検表」及び「水準チェック会議」などの活動を含む「教育改善のループ」から構成されている。「教育改善のループ」では、試験問題とボーダーラインの答案の水準を各学科でチェックする「水準チェック会議」の評価結果を含め、各種評価結果が「教員自己点検表」として取りまとめられ、教育点検実施委員会による点検を受け、運営委員会の審議を経て、各委員会への改善方針が提示され実行されているほか、各教員への改善指示が提示され改善が図られている。【函館（再掲）】
- 教員による授業公開が年2回実施されており、参観した教員に提出が義務付けられている「公開授業記録」を公開授業担当教員の授業内容の改善のためにフィードバックすることにより、教員相互に授業方法等の質的向上を図っていることは、特色ある取組である。【秋田】
- 全ての授業科目に対して定期試験直前に学生自身による理解度調査を実施し、その結果を期末試

験結果と比較することで、担当教員による授業改善に結び付けているとともに、学年末に学習達成度評価記録簿により学習・教育目標の項目別達成度を学生自身に評価させ、その結果をクラス担任が学生指導に活用している。【福島】

9-2-①：FDの実施及び教育の質の向上及び授業の改善

優れた点

- FD部会の下、ティーチングポートフォリオに関する講演会やミニワークショップを平成23年度から毎年実施しており、これまでに12人の教員がティーチングポートフォリオを作成するなど、参加教員から好評を得ている。【苫小牧】
- FD活動を継続的に実施しており、それによる改善事例として、学生に次週の授業内容に関する簡単な問題や調査をレポートとして課し、授業では予習課題の回答や次週の予習課題の解説等を行うという授業形式である「反転授業」を導入し、各学科2科目程度実施していることは、特色ある取組である。【長岡】
- 平成17年度FDシンポジウム「プレゼンテーションツールを活用した全員がわかる授業への取組」を契機として、教育改善推進室が主体となって、平成23年度「豊田工業高等専門学校教育研究プロジェクト」に採択された「授業支援ツールの開発・運用」により、ベテラン教員の授業方法を収集・整理し、ウェブサイトを利用して、若手・新人教員をはじめとする他の教員に提示する試みは、特色ある取組である。【豊田】
- ファカルティ・ディベロップメント活動が効果的に行われており、討議の場として、テーマごとの班別のディスカッションの場を設けるFDセミナー及び個々の教員がテーマ提供する具体的で実践的な話題について、「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」などのテーマを取り上げ、自由討議の場とするFD小セミナーは、教育改善に向けた特色ある取組である。【豊田】
- 英語教育などの問題点への取組だけでなく、キャリア教育充実などの教育の充実への取組、また教育改善推進室が中心となったファカルティ・ディベロップメント活動を教育の改善・充実へ結び付ける取組など、教育の改善・充実への学校全体の取組が効果的に行われている。【豊田】
- 各教員は担当科目ごとに授業点検シートA（改善状況などを記載したもの）を作成し授業の自己点検を行っているとともに、学生による授業評価アンケートの結果を踏まえ、年度初めに前年度の自己評価点検・校務業績ポイント表を作成し、FD委員会に提出している。これらをFD委員会が点検・評価し、必要があれば個別指導を行っていることは、特色ある取組である。【大分】
- 年2回1週間の授業公開週間を設けており、教員は授業公開参観報告書を通じて相互に授業評価ができるようにしているとともに、FD委員を中心に授業チェックを行っていることは、特色ある取組である。【大分】

9-2-②：教育支援者等に対する研修等

優れた点

- 技術職員がその資質の向上を図って積極的に活動し、科学研究費補助金や校内の校長裁量経費など、毎年複数の採択実績を上げている。【函館】
- 技術職員がその資質の向上を図って積極的に活動し、科学研究費補助金や校内の校長裁量経費な

ど、毎年複数の採択実績を上げている。【石川】

- 技術職員がその資質の向上を図る取組を継続的に行っており、受託研究・科学研究費補助金などの外部資金の獲得、各種論文の発表を行っている。【米子】

基準 10

10-1-③：外部の財務資源の活用策

改善を要する点

- 科学研究費補助金、受託研究費等の外部研究資金の獲得への取組が不十分である。【近大】

基準 11

11-1-②：危機管理

改善を要する点

- 国立高等専門学校機構リスク管理本部からの照会を受けて調査した結果、放射性物質の存在を確認し、文部科学省へ報告するとともに、国際規制物質使用許可の申請を行い、許可を得て管理するに至っている。今後とも危険物質等の充実した管理を継続する必要がある。【小山】
- 未登録の核燃料物質5点を発見し、国立高等専門学校機構リスク本部及び文部科学省、原子力規制委員会に報告を行っている。原子力規制委員会の指導のもとに核燃料物質の適切な貯蔵場所を確保し保管するとともに、法令に基づき原子力規制委員会に対して核燃料物質使用許可申請を行い、平成25年4月24日付で許可されているなど、改善を図っているものの、今後も継続的に管理体制を整備し、安全管理の充実を図る必要がある。【新居浜】

11-2-①：自己点検・評価の実施・公表

改善を要する点

- 学校の活動の総合的な状況に関する自己点検・評価のための評価項目及び評価サイクルは設定されているものの、評価基準が不明瞭である。【秋田】
- 中期計画・年度計画による自己点検・評価が行われているものの、学校の活動の総合的な状況に対する自己点検・評価に関して、学校として策定した評価項目・評価基準が不明瞭である。【福島】
- 中期計画の実施状況について内部評価を実施し、自己点検・評価としているものの、学校の活動の総合的な状況に対する効果的な自己点検・評価の実施について、評価項目・評価基準の設定は十分とはいえず、公表されているものには、自己点検・評価の評価内容が十分には記述されていない。【群馬】
- 基準9に係る教育の状況を含む学校の活動の総合的な状況に対する自己点検・評価に関しては、その実施要項に評価項目を定めているものの、その評価は年度計画の達成度を基準としており、継続的な点検・評価の実施という観点から十分とはいえない。【長岡】
- PDCAサイクルに従った改善システムが構築されているものの、現行の自己点検・評価の基準が年度計画の達成度評価に基づいているため、改善対象となる項目が限定されるおそれがある。【長岡】
- 年度計画の実施状況に関する点検を行い自己点検・評価としているものの、学校の活動の総合的な状況に対する効果的な自己点検・評価の実施という点では、評価項目・評価基準の設定は十分とはいえない。【豊田】
- 中期計画に基づく年度計画の実施状況の確認を行っており、自己点検・評価としているものの、高等専門学校の活動の総合的な状況に対する効果的な自己点検評価としては、評価項目・評価基準の設定には不十分な点が見られ、公表されている自己点検・評価には評価内容が十分には記述されていない。【米子】
- 不定期に自己点検・評価報告書を公表しているものの、学校の活動の総合的な状況についての自己点検・評価に関する学校として策定した評価項目・評価基準が不明瞭である。【津山】

- 学校の活動の総合的な状況に対する自己点検・評価の項目が定められ、報告書が公表されているものの、学校として策定した点検・評価項目に対する評価基準が必ずしも明確にされていない。【大島商船】
- 学校の活動の総合的な状況に対する自己点検・評価を実施し、公表しているものの、学校として策定した評価項目に関する評価基準が不明瞭であり、活動状況の評価が適切に実施されているとはいえない。【大分】
- 学校の活動の総合的な状況に対する自己点検・評価が実施されているものの、高等専門学校機関別認証評価やJ A B E E（日本技術者教育認定機構）審査基準をそのまま用いるなど、学校として策定した評価基準が不明瞭であるとともに、評価結果の公表の仕方についても十分とはいえない。【近大】

11-2-③：改善のためのシステムの整備

改善を要する点

- 評価改善委員会が中心となって中期計画・年度計画の達成度評価をもとに改善を図る体制となっているものの、学校の総合的な状況に関する自己点検・評価の結果を改善に結び付けるシステムが不明瞭である。【福島】
- PDCAサイクルに従った改善システムが構築されているものの、現行の自己点検・評価の基準が年度計画の達成度評価に基づいているため、改善対象となる項目が限定されるおそれがある。【長岡（再掲）】
- 年度計画に関する評価結果の課題に対処する取組を行っているものの、活動の総合的な状況についての自己点検・評価の結果を状況の改善に結び付けるシステムの仕組みが不明瞭である。【津山】

11-3-①：外部有識者等の意見及び第三者評価の結果の反映

改善を要する点

- 前回の認証評価において改善を要する点として指摘された基準6に関する事項が今回の認証評価においても同様に指摘されるなど、第三者評価の結果を反映する改善システムが十分に機能しているとはいえない。【大島商船】

11-3-②：外部の教育資源の活用

優れた点

- 平成25年度から、他の8つの高等専門学校との連携協力のもとに行っている事業である「オーダーメイド数学大辞典システムの構築」プロジェクトに取り組み、数学をはじめ他の一般科目及び各専門学科の教育内容について、個々の学生がそれぞれのレベルに合わせて、数学と専門科目を関連させて、自主的学習を進めるツールとして整備している取組は、今後の活用が期待される特色ある取組である。【石川】
- 地域共同テクノセンターを核として、地元企業等からなる米子高専振興協力会や米子高専同窓会と連携し、地元自治体や公的機関、金融機関等との包括連携協力協定の締結をも加え、会員企業の

ニーズと当校教職員の持つシーズをマッチングさせ共同研究につなげる毎年恒例の「ニーズ&プロ
ポーザル」、また地元企業等の課題やニーズを卒業研究・特別研究等のテーマに設定する「地域ニ
ーズ対応共同教育」、インターンシップの実施、全国企業で技術者として活躍する同窓生の地元へ
の U-turn 等の実現による地元企業の活性化への貢献などを図っていることは特色ある取組であ
る。【米子】

選択的評価事項A

A-1-①：研究体制、支援体制

優れた点

- これまでに文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択された、「学生参画型産学連携推進プログラムー“技術者の卵”の地産地消を目指してー」「高専間連携を活用した体験型環境教育の推進ー持続可能な環境社会を担うエンジニア育成のための体験型教育プロジェクトー」や、文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム」に採択された「実践的テーマによる国際産学連携CEの推進 海外で仕事ができる技術者に！」及び「大学教育の国際化加速プログラム」に採択された「実践的テーマによる国際産学連携CEの推進 国際社会で通用する技術者の育成を目指して」等々のプログラムの事業終了後に、当校独自の継続的な活動として運営委員会の下に専門部会を設置し、「高専教育における国際交流のあり方」に関する研究など教育に関する多様で今日的な研究を継続しており、成果を上げている。【苫小牧】
- 異分野の教員が複数連携して実施する教員プロジェクト研究を推進するために、運営費交付金からの研究費配分のほかに、校長戦略経費から戦略的経費を配分していることは、特色ある取組である。【福島】
- 学科・専攻科横断型一貫教育プログラムである「新エネルギー創生教育プログラム」及び「システムデザイン教育プログラム」として、各専門分野の先端的研究領域において複数教員の指導体制によって準学士課程4年次から専攻科課程2年次までの教育と研究を実施していることは、特色ある取組である。【長岡】
- 幅広い専門分野の教員が協力し合うことで規模の大きな、あるいは新分野の研究につなげる学科横断型のプロジェクト研究を平成21年度に立ち上げ、現在、3つのプロジェクトを実施しているが、その一つである環境・エネルギープロジェクトは岡山大学及び日本原子力研究開発機構との連携プロジェクトに発展し、定期的にプロジェクト会議を開催するなど、活発に活動している。【津山】

A-1-②：活動の成果

優れた点

- これまでに文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択された、「学生参画型産学連携推進プログラムー“技術者の卵”の地産地消を目指してー」「高専間連携を活用した体験型環境教育の推進ー持続可能な環境社会を担うエンジニア育成のための体験型教育プロジェクトー」や、文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム」に採択された「実践的テーマによる国際産学連携CEの推進 海外で仕事ができる技術者に！」及び「大学教育の国際化加速プログラム」に採択された「実践的テーマによる国際産学連携CEの推進 国際社会で通用する技術者の育成を目指して」等々のプログラムの事業終了後に、当校独自の継続的な活動として運営委員会の下に専門部会を設置し、「高専教育における国際交流のあり方」に関する研究など教育に関する多様で今日的な研究を継続しており、成果を上げている。【苫小牧（再掲）】
- 当校の研究活動の目的の一つである「実学に根ざした技術を探求し、独創的な工業技術を創造す

る研究開発を目指す」ための学科横断型プロジェクト研究において、学科の垣根を越えた研究成果としての新たな特許や新材料開発などの実績を挙げている。【秋田】

- 平成 24 年度は、「第 26 回独創性を拓く 先端技術大賞」学生部門で特別賞を、「第 9 回高校化学グランドコンテスト」で最優秀賞の文部科学大臣賞を、また工作機械技術振興賞・奨励賞を、さらに「全国高等専門学校デザインコンペティション」構造デザイン部門で最優秀賞の国土交通大臣賞を受賞し、「第 16 回スターリングテクノラリー」3Vクーラー部門5連覇、100Vクーラー部門初優勝の成果を収めている。平成 25 年度には、「第 10 回高校化学グランドコンテスト」で大阪市長賞、パナソニック賞を、「全国高等専門学校デザインコンペティション」2部門で最優秀の国土交通大臣賞、文部科学大臣賞を、4部門で優秀賞を、1部門で審査員特別賞を受賞し、「第 17 回スターリングテクノラリー」3Vクーラー部門6連覇、100Vクーラー部門2連覇の成果を上げるなど、教員の研究活動が教育に波及し、学生の自主的活動の成果となって表れている。【米子】
- 平成 23 年度に設立した「東予シッパーリサイクル研究会」を継続させ、平成 24 年度に「シッパーリサイクルに関する研究」を学内外の研究者・技術者が共同で行い、平成 25 年には、旧青函連絡船「羊蹄丸」の実証検証において、国際条約であるシッパーリサイクル条約に世界で初めて適合する解撤であると認められ、産学官連携の成果を上げている。【新居浜】
- 地域が抱える課題の解決を目指した機械工学科の「七島イの効率的な生産」への取組は、大分高等教育協議会主催の「大分の地域資源を考えるセミナー」で依頼発表するなど、関係者から高く評価されている。【大分】

改善を要する点

- 研究設備の整備、校長裁量経費の申請枠の新設など、研究環境の整備を進めているものの、研究業績については、近年やや減少傾向にある。【函館】

選択的評価事項B

B-1-①：教育サービスの計画的な実施

優れた点

- 平成 18～20 年度経済産業省中小企業庁「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」に採択された「函館圏におけるマネジメント能力に優れた建設人材の育成」等の成果を活かし、「はこだてコンクリート塾」「技術士第二次試験チャレンジセミナー」を実施し、地域の技術者の育成を図っていることは、特色ある取組である。【函館】
- 科学講座の中で寄せられた「楽しい、けど難しい」との参加者の声をもとに、「楽しくて、わかる講座」として、科学実験と科学演劇を組み合わせた体験プログラム「科学演劇を取り入れた わかる科学講座」を平成 24 年度科学技術振興機構（JST）「科学技術コミュニケーション推進事業「活動実施支援」」の採択を受けて実施しており、函館地域の教育機関のネットワークである「サイエンス・サポート函館」や大学・高等専門学校・短期大学のコンソーシアムである「キャンパス・コンソーシアム函館」の活動の一環として、毎年開催される「はこだて国際科学祭」において実施することとしていることは、特色ある取組である。【函館】
- 平成 23 年度に採択された文部科学省の大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業「原子力に依存しないエネルギーと安全・安心な社会を目指す地域復興人材育成」では、地域復興支援室が中心となり、復興人材育成事業として地域企業・一般市民等を対象に社会人特別教育プログラム、地域フォーラム等を開催するなど、地域のニーズに対応している。【福島】
- 平成 22 年度に発足し、平成 23 年度に栃木市にオープンしたサテライト・キャンパスは、技術相談、講座やイベントの開催、常設展示など、地域に対する教育サービス、情報発信にとどまらず、栃木市の歴史的町並みに対して「伝統的建造物群保存地区における総合防災事業の開発」など地域研究事業を展開し、地域貢献を図っている。【小山】
- 平成 17 年度経済産業省「産学連携製造中核人材育成事業」に採択された「長岡ものづくり開発設計人材育成プロジェクト～長岡フェニックス計画」及び平成 20 年度経済産業省中小企業庁の「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」に採択された「3次元CAEエンジニア育成プロジェクト」の成果を発展させ、「長岡モノづくりアカデミー」において、他の公的機関と連携して専門分野に精通した地域産業の中核的リーダーとなり得る人材の育成事業を行っていることは、優れた取組である。【長岡】
- 平成 19 年度及び 20 年度経済産業省中小企業庁「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」に採択された「石川県ニッチトップ企業人材育成事業」の成果を活かし、地域企業技術者を対象に「自動化技術の啓発と承継」などの技術講習会を継続的に実施している取組は特色ある取組である。【石川】
- 経済産業省中小企業庁「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」に平成 18 年度に採択された「豊田地域の自動車部品製造における中小企業の若手技術者育成プログラム」及び平成 20 年度に採択された「自動車部品製造における中小企業の製造技術者育成プログラム」の事業として「ものづくり人材育成講座」を実施し、事業終了後も豊田市商工会議所、豊田工業高等専門学校、豊田市の産学官連携による「とよたイノベーションセンター」において、「製造技術者育成プログラム」として継続して実施し、地域技術者の育成を図っているほか、平成 21 年度科学技術振

興機構（JST）「社会システム改革と研究開発の一体的推進」の「地域再生人材創出拠点の形成」に採択された「ものづくり一気通観エンジニアの養成プログラム」（後の文部科学省採択事業）の成果を活かした産学官連携の「創造的ものづくり技術者育成プログラム」を導入して、電子機械工学専攻1年次及び2年次の「電子機械工学特別実験」、情報科学専攻1年次及び2年次の「情報科学実験」において、専攻科課程の学生とともに地域企業技術者の育成を図っていることは、特色ある取組である。【豊田】

- 小中学校、図書館、公民館、米子市文化財団、わかとり科学技術育成会などの様々な地元機関と連携、協力して、公開講座、出前授業、ジョイント講座を継続的に実施し成果を上げているほか、平成24年度JST（科学技術振興機構）の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択されたことを契機に、女子中高生の理系分野に対する興味・関心を喚起し、理系分野に進むことを支援する取組を実施している。【米子】
- 平成19年度から鳥取県の協力事業として、「課題対応スキル向上事業」において、鳥取県職員人材開発センター主催の講習会に継続的に参加し、平成20年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択された、「地域特性に配慮し耐震性向上を目指した建築技術者への再教育プログラム」の成果を活かして、鳥取県職員のスキルアップを目的として、「建築構造設計再入門」の研修会を実施している。また、米子高専振興協会の会員企業の社員を対象に、「お試し講座」を開設するなど、地域の技術者のレベル向上を図る取組を継続していることは、特色ある取組である。【米子】
- 企業からの要望に応じて開催している出前講座は、地域企業において社員教育の一環として取り入れられており、これに対してつやま新産業創出機構（津山市の外郭団体）から感謝状を授けられている。また、随時受付を行っている技術相談は、学術・社会連携推進事務室が手軽に相談できる窓口として機能し、毎年数十件の受入実績があり、相談事項が進展して学生の卒業研究として取り扱われる事例もあるなど、有効に機能している。【津山】
- 公開・教養講座の一環として、地域からの要請を受け、周防大島町教育委員会と共同で、練習船大島丸を活かした、周防大島町の婦人会や老人クラブを対象とした洋上研修や、「B&G親子3Sキャンプ」、「周防大島少年の船洋上セミナー」等を行っており、参加者から高い満足度を得ている。【大島商船】
- 平成18年度に独立行政法人科学技術振興機構の「サイエンス・パートナーシッププロジェクト」に採択された小中学校教員に対する研修、また平成18年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援事業（現代GP）」に採択された「地域連携プロジェクト型ものづくり活動」を通じた「ものづくり人材育成」のプロジェクトの成果を活かし、事業終了後も、新居浜市教育委員会の協力のもと、ものづくり教育支援センターの主催により、小中学校の理科教員および中学校の技術科教員を対象に毎年それぞれ夏季休業中に実技研修会を継続的に開催し、地域の人材育成を図っていることは特色ある取組である。【新居浜】

B-1-②：活動の成果、改善のためのシステム

優れた点

- 児童生徒、一般市民に対して、出前セミナーを実施し、平成25年度には、延107回開催し、延受講者21,262人の実績をあげている。【群馬】

○ 地元ケーブルテレビネットワークを利用した県民チャンネルで「米子高専・知的セミナー」を放送し、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト、建築史、文学、数学などに関する番組の再生回数が全番組の中でも上位にあって、県民に視聴されており、地域貢献を果たしている。

【米子】

○ 平成 20 年度からの 5 年間、JST（科学技術振興機構）の「科学技術振興調整費-地域再生人材創出拠点の形成」プログラムの補助金を受けて、高齢化が進む地元周防大島町の再生のために、島の資源を活用し開発販売を行う起業家や動画で情報発信を行うネットTVディレクターを養成し、支援することで地域再生を目指す「山海空コラボレーションみかん島再生クルー」事業を実施したが、事業終了後も島スクエア起業教育研究センターを設立し、近隣市町村からの支援を受け、事業を継続しており、成果を上げている。【大島商船】